

与論島の活性化のために

法文学部法政策学科 1年 高木翔平

学籍番号 1116400438

私は今回の集中講義で初めて与論島を訪れた。しかし私の父が長崎県の五島列島出身で、小さい頃によく遊びに行っていたため、島に行くのは初めてのことでなかった。私の小さい頃の記憶からすると、島には24時間営業のコンビニエンスストアや大きいショッピングセンターなどがなく、「島には何もない」というイメージがあった。今回の集中講義で与論島を訪れる前もこのようなイメージがずっと私の頭の中にあった。しかし実際に与論島を訪れてみると、エメラルドグリーンの透き通った海や真っ白な砂浜など、素晴らしいものがたくさんあり、私のイメージは間違っていたのだということに気付かされた。今回、与論島の方々に話を伺ったり、与論島で数日間生活してみて、与論島の活性化のためにはどのようなことが必要であるかということについて考えた。

与論島を活性化するための大きな第一歩として、観光産業をもっと発展させていくべきであると思う。最近テレビで与論島の特集が多い影響もあってか、観光客は増え続けている。しかし月別で見ると、観光客数が伸びているのは夏場だけで、年間を通して見ると、あまり観光客が多いとはいえない。与論島の方の話で、「観光客は百合が浜を訪れると、みんな満足して帰ってしまう。」という話があった。百合が浜は「世界一の海」と称されるほど、たしかに海の色がきれいで訪れる人々の心を魅了する。しかし与論島には百合が浜だけでなく、私たちが今回訪れたサザンクロスセンター、与論城跡、民俗村など、与論島にしかない素晴らしい観光名所がたくさんある。そのような観光名所もインターネットやテレビで大いにアピールしていくべきである。そうすれば夏場だけでなく、年間を通して観光客が増加するであろう。

しかし与論島をアピールするだけではいけない。与論島を訪れた観光客に、どれだけもう一度与論島を訪れたいと思わせることができるかが大切である。私は与論島に滞在している間、与論島のお土産屋や飲食店に行った。そこで私は与論島限定のお土産や料理を期待していたのだが、あまりそういうものはなかった。観光客は観光名所を回ることに以外に、その土地の郷土料理を食べたりお土産を買っていたりすることも楽しみのひとつにしている。だからもっと与論島ならではの料理や商品を増やし、お店のメニュー表や看板でも大きく紹介するべきである。

また、島全体の整備も行うべきである。私は滞在中、自転車を使って様々なところに行った。バスで島を回るよりも風にあたって気持ちよかったし、のんびりと島全体の景色を眺めることができた。しかし歩道がなく道路の端も狭いために、どうしても道路を走らなければならなかった。車の交通量も意外に多く、とても危険だった。またどこかに行こうとしてもあまり看板がなく、道に迷ったりすることも多々あった。だから、人が安心して歩いたりいろいろなところへ行けるように、もっと看板や歩道を増やすべきであると思っ

た。

これまで述べてきたことはすべて改善点であるが、与論島には改善点だけでなく良い点もたくさんあった。まずは最初にも述べたが、エメラルドグリーンの美しい海や真っ白な砂浜、珊瑚などがあることである。私は与論島の海のような透き通った美しい海を人生の中で一度も見たことがなかったので、すごく感動した。次に、島の人々が皆温かいことである。講義をしてくださった方々も居酒屋で出会った方々も皆さんが元気で優しくて、日頃の疲れや悩みも忘れることができた。与論島にはこのような素晴らしいところがたくさんあるので、これからも島の方々には大切にしていってほしいと願っている。

以上が私が与論島に行って感じたことであるが、与論島は本当に素敵な島で、滞在した4日間は嵐のように過ぎ去るほど、楽しい時間を過ごすことができた。今回の与論島での滞在は、私にとって一生忘れることのできない、かけがえのない思い出となった。ぜひ機会があれば、もう一度与論島を訪れたいと強く思っている。